（前のページから↙）

【全体討論】

・橋本翔太代議員（新宮支部）

就労問題について、相談活動のなかからみえてくる地域の実態、とりわけ生活、仕事、教育を再確認し、就労課題・仕事保障に取り組むビジョンを明確にするとともに、具体的課題の克服に向けたとりくみをお願いしたい。

・平川拓也代議員（湯浅）

青年の地域離れについて、就労対策や住宅問題など、青年の組織強化を。全支部に青年部結成をお願いしたい。

・飯田勝代議員（古和田）

西光万吉宅の保存について、お礼と報告。

・辻本将典代議員（有田市）

有田市議会議員選挙のお礼。

【総括答弁】

・松井資喜・青年部長

青年部独自で県と交渉はじめた。就労については、企業連、中企連、同企連にも声かけして仕事保障をお願いする。

・松井辰也・執行委員

人事委員会ができて、地域の低学力の子どもの1次試験が難しくなった。地域の子どもの低学力を直視し、どのようにとりくめば学力があがり高校に入学できるか、得意な分野をどうのばすのか考えてほしい。

・宮本修作・書記長

全般的に就労問題の声が多い。企業連、中企連、同企連という組織があるが、どことも自身の事業の展開に苦慮している。事業転換としてアドバイスし、地域の青年を雇用してくれるよう、態勢を整える。また、男女平等にかかわって、支部が積極的に学習会をしてほしい。

第40回女性部定期大会

第40回女性部定期大会をひらき、19支部68人が参加した。

竹中多恵子・対策部員の司会で開会し、解放歌の合唱、水平社宣言を松田康子さん（杭ノ瀬）が朗読した。議長団に西峯恵美さん（湯浅）と嘉村美千代さん（岩出）が選出された。

主催者を代表し山本昌代・女性対策部長は、長崎第61回全女、前日の平和フィールドワーク、熊本地震、実態調査への協力を要請し、40回を迎え、先輩たちの意見をききながらすすめていくとあいさつをした。県連を代表し、宮本修作・書記長は「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が継続審議となり、人権と平和を守るため衆議院選挙の推せん候補者の当選に向け尽力しようとあいさつした。つづいて、藤本眞利子・県議会議員は、実態調査への協力について、松井資喜・青年部長は、沖縄平和行進、米兵による女性殺害事件、オバマ大統領広島訪問にかかわり、平和について憲法9条や日米地位協定など、ともに学習し連けいしようあいさつした。岡本勝年・和歌山県環境生活部県民局長、松下幸・和歌山市男女共生推進課課長からもあいさつがあった。

2015年度活動報告を宮本睦・事務局長、2016年度活動方針（案）を坂下君代・副部長・井上百々代・対策部員が提案した。善明寺支部から、2年に一度ひらかれる識字経験交流会について、識字生が参加できるよう要請があった。岩橋支部から世話役活動の具体的な活動について質問があった。役員選考委員長の中井喜美子・代議員から新役員の報告が、大会宣言（案）の提案を竹本雅世・対策部員がおこなった。閉会のあいさつと団結ガンバローを坂下・副部長がおこない、大会をおえた。

◆新役員

女性対策部長：山本昌代（芦原）、副部長：坂下君代（平井）・北内ますみ（鳴神）、事務局長：宮本睦（那賀）

【メッセージ】

中央女性対策部長・山崎鈴子、大阪府連女性部長・鶴岡弘美、兵庫県連女性部長・植村あけみ、愛知県連女性対策部長・山崎鈴子、同女性部長・磯貝永子、京都府連女性部長・原田眞智子、奈良県連女性部長・松谷　操、和歌山県知事・仁坂吉伸、和歌山市長・尾花正啓（順不同・敬称略）

部落解放同盟和歌山県連合会

第40回女性部定期大会

あいさつする山本昌代・女性対策部長

各支部で大会ひらく

●**岩出支部**の定期大会が5月19日、曽屋教育集会所でひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長　岡田　敏晴

●**新宮支部**女性部の定期大会が5月20日、下田隣保館でひらかれた。役員はつぎのとおり。

女性部長　磯崎　美幸

●**善明寺支部**と女性部の定期大会が5月28日、善明寺文化会館でひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長　中辻　繁樹
女性部長　山本　はつ美

●**本渡支部**の定期大会が6月15日、本渡文化会館でひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長代行　山本　恵里

●**田辺支部**の定期大会が6月18日、西部センターでひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長　大西　重美

●**湯浅支部**女性部の定期大会が6月18日、湯浅町総合センターでひらかれた。役員はつぎのとおり。

女性部長

●**古和田支部**女性部の定期大会が6月24日、古和田会館憩の家でひらかれた。役員はつぎのとおり。

女性部長　岡中　邦子

●**那賀支部**女性部の定期大会が6月29日、那賀総合センターでひらかれた。役員はつぎのとおり。

女性部長　宮本　睦

部落解放同盟和歌山県連合会第61期定期大会が6月4日から5日にかけて白浜で開催された。県選出の国会議員や県内各界各層からご出席されました、ご来賓大変ありがとうございました。

第61期運動方針をはじめ、本年は執行部の役員選挙もおこなわれ、すべての県連執行委員が信任された。今回の大会では人権の法制度確立に向けた議論が中心的な議題となっていた。県連では昨年11月に開催された「人権フォーラム・東京集会」の成功をもとに、継続して県選出の国会議員や政党に要請活動を展開してきた。また本年2月に発覚した、鳥取ループ（示現舎）による「全国部落調査・部落地名総鑑の復刻版」差別事件が発生し、差別が野放し状態になっており、早急な人権の法制度が急務の課題であることが確認された。

主張　あらたな課題解決のため、新体制で運動を強化しよう！

そして、2つの分散会では、部落解放運動を支えていくための組織強化や青年部・女性部の組織化と活動の点検、狭山第3次再審闘争の現状、仕事保障や生活の問題、災害に対する支援・救済に関する意見が多く出された。とくに仕事保障の問題では、青年層から地元で働く場所がないから、県外に多くの若者が流出している。地域の部落解放運動を担ってきた青年が地元で働けないという状況になっている。また、水平社関連の資料をユネスコの世界記憶遺産に登録する運動を展開してきたが、昨年秋の国内選考で推薦が見送られた。あらためてこの記憶遺産に登録する運動を積み上げていくのとが確認されている。

このことを受けて、数年来県内や全国の仲間にカンパ活動を展開してきた、光万吉の自宅修復・保存活動で、6月26日には「西光万吉邸・永住の地」記念館が完成し、オープニングセレモニーが開催された。改修資金の都合もあるが、西光さんや清原さんが生活していた状況に近い形、オリジナル（原型）に近い形を強調し、その上で西光さんの絵画や資料を展示する内容となっている。

県連としても、県連大会でだされた貴重な意見を精査し、今後の部落解放運動をどう展開していくのかを新体制で十分議論し、運動を展開していかなければならない。

文化の窓

「認知症の語り」

―本人と家族による200のエピソード―

発行：2016/6/1
編集：認定NPO法人健康と病いの語りディペックス・ジャパン
出版：日本看護協会出版会、ISBN：978-4-8180-1980-5

「認知症になると、なにもできない・・・」と思われがちですが、それは大きな偏見であることが、この本からよくわかります。当事者や介護者、また支援する人それぞれの想いが「人が生きる」ことの意味を教えてくれます。

◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073－473－2301